

ごみ減量等リサイクルに関する
取り組みについての市民アンケート
調査結果

平成29年1月
山口市

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、市民のごみ減量とリサイクルの取り組みの実態を把握し、山口市一般廃棄物処理基本計画策定に係る基礎資料とするために実施した。

2 調査の対象

アンケートの調査対象者は、平成28年9月1日現在において山口市に住所がある18歳以上の市民4,000人を無作為に抽出した。

3 調査方法

郵送配布、郵送回収とした。なお、回答は宛名本人が記入することを原則としたが、本人が記入できない場合は家庭の中で普段ごみを主に取り扱っている方に記入してもらうことにした。

4 調査期間

平成28年9月16日に発送し、同年9月30日到着分までを集計し、分析した。

5 回収結果

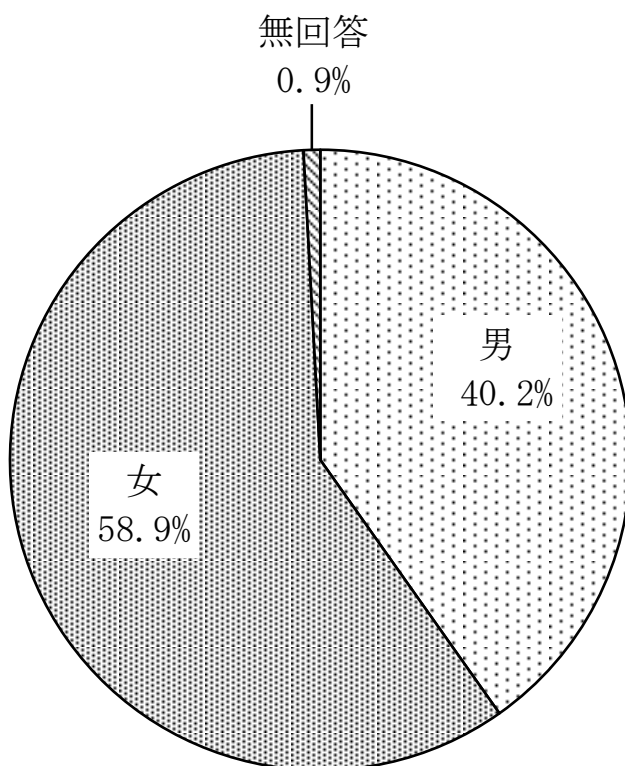
発 送 数	4,000人
転出等による返却	16人
対 象 者 数	3,984人
回 収 数	1,619人
有 効 回 収 率	40.6%

Ⅱ 回答者の構成

1 性別

性別のアンケート回収数、回収者割合（回収数÷回収数合計1,619人）は次のとおりである。

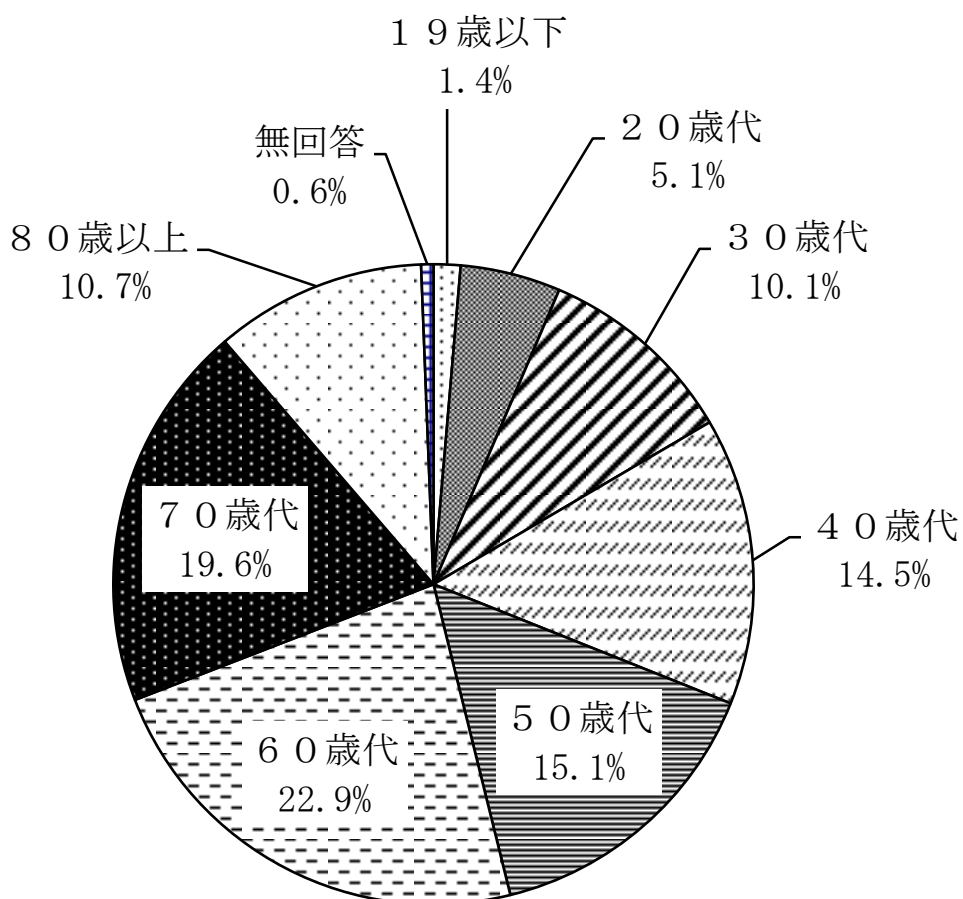
	男	女	無回答
回収数	651	954	14
回収者割合	40.2%	58.9%	0.9%



2 年齢別

年齢別のアンケート回収数、回収者割合（回収数÷回収数合計1,619人）は次のとおりである。

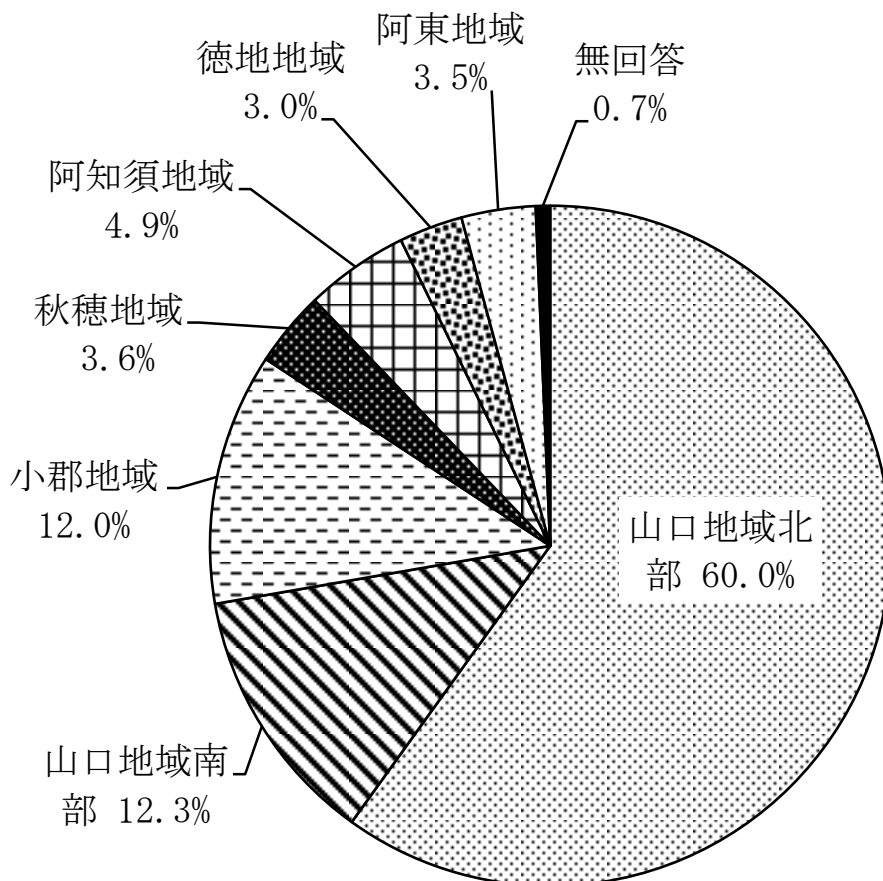
	回収数	回収者割合
19歳以下	22	1.4%
20歳代	82	5.1%
30歳代	164	10.1%
40歳代	235	14.5%
50歳代	244	15.1%
60歳代	372	22.9%
70歳代	317	19.6%
80歳以上	173	10.7%
無回答	10	0.6%



3 地域別

地域別のアンケート発送数、回収数、回収率（回収数÷発送数）、回収者割合（回収数÷回収者合計1,619人）は次のとおりである。

	発送数	回収数	回収率	回収者割合
山口地域北部 （仁保、小鯖、大内、宮野、 大殿、白石、湯田、吉敷、 平川、大歳）	2,500	970	38.8%	60.0%
山口地域南部 （陶、鑄銭司、名田島、秋穂二 島、嘉川、佐山）	383	200	52.2%	12.3%
小郡地域	522	194	37.2%	12.0%
秋穂地域	143	58	40.6%	3.6%
阿知須地域	196	80	40.8%	4.9%
徳地地域	129	49	38.0%	3.0%
阿東地域	127	57	44.9%	3.5%
無回答	—	11	—	0.7%



Ⅲ 調査結果

1 家庭におけるごみ減量化・リサイクルの取り組みについて

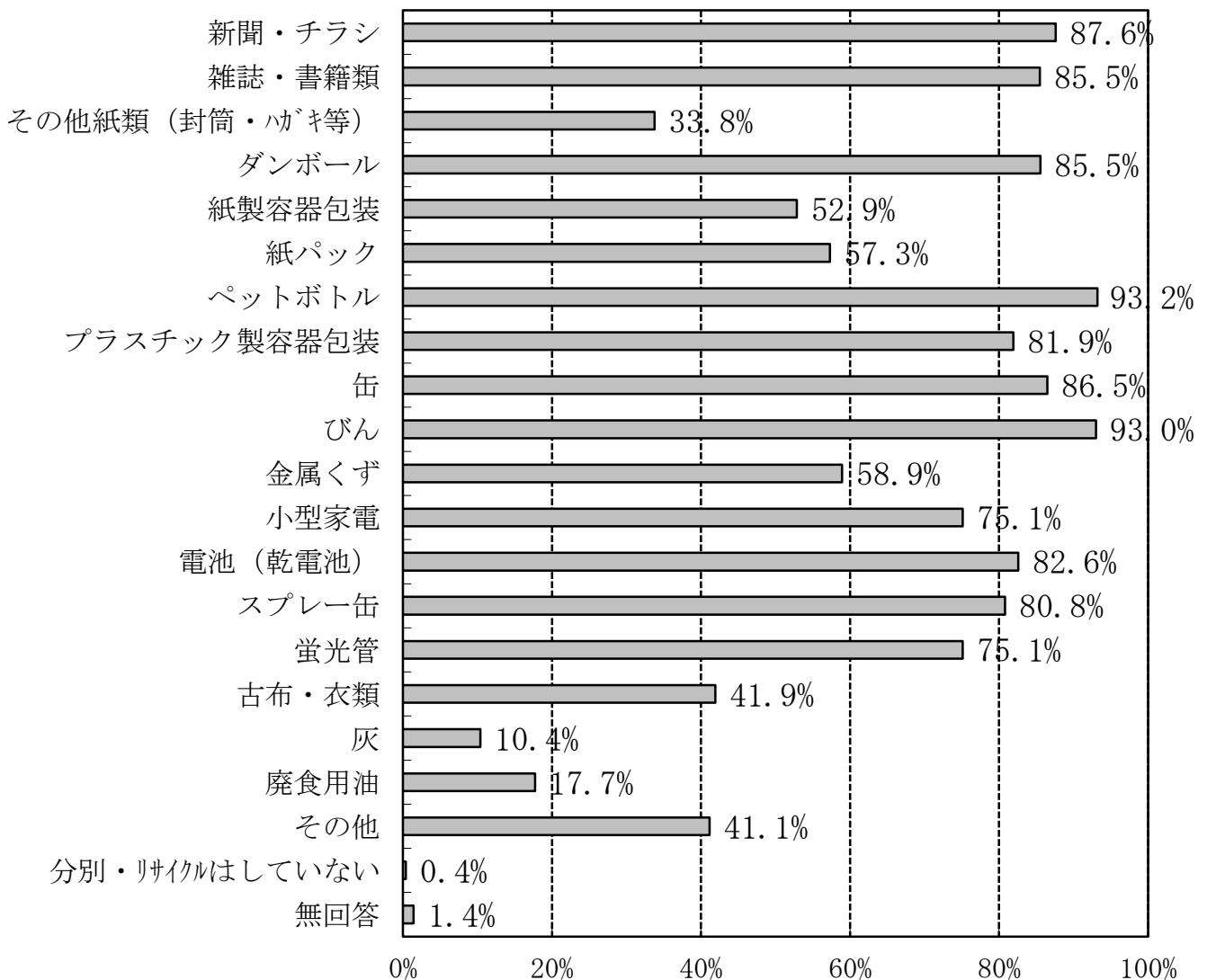
(1) 分別・リサイクルに取り組んでいる品目について・・・問22（該当項目すべてに回答）

市が分別品目として回収している品目に加え「灰」を品目として具体的に掲げ、それぞれの品目に係る各家庭における分別・リサイクルの取り組みの状況について調査した。

その結果、市の分別品目のうち、「ペットボトル」「びん」については90%以上、「新聞・チラシ」「缶」「雑誌・書籍類」「ダンボール」「電池（乾電池）」「プラスチック製容器包装」「スプレー缶」については80%以上、「小型家電」「蛍光管」については70%以上が分別・リサイクルされていることがわかった。「その他紙類（封筒・ハガキ等）」については、33.8%程度であった。

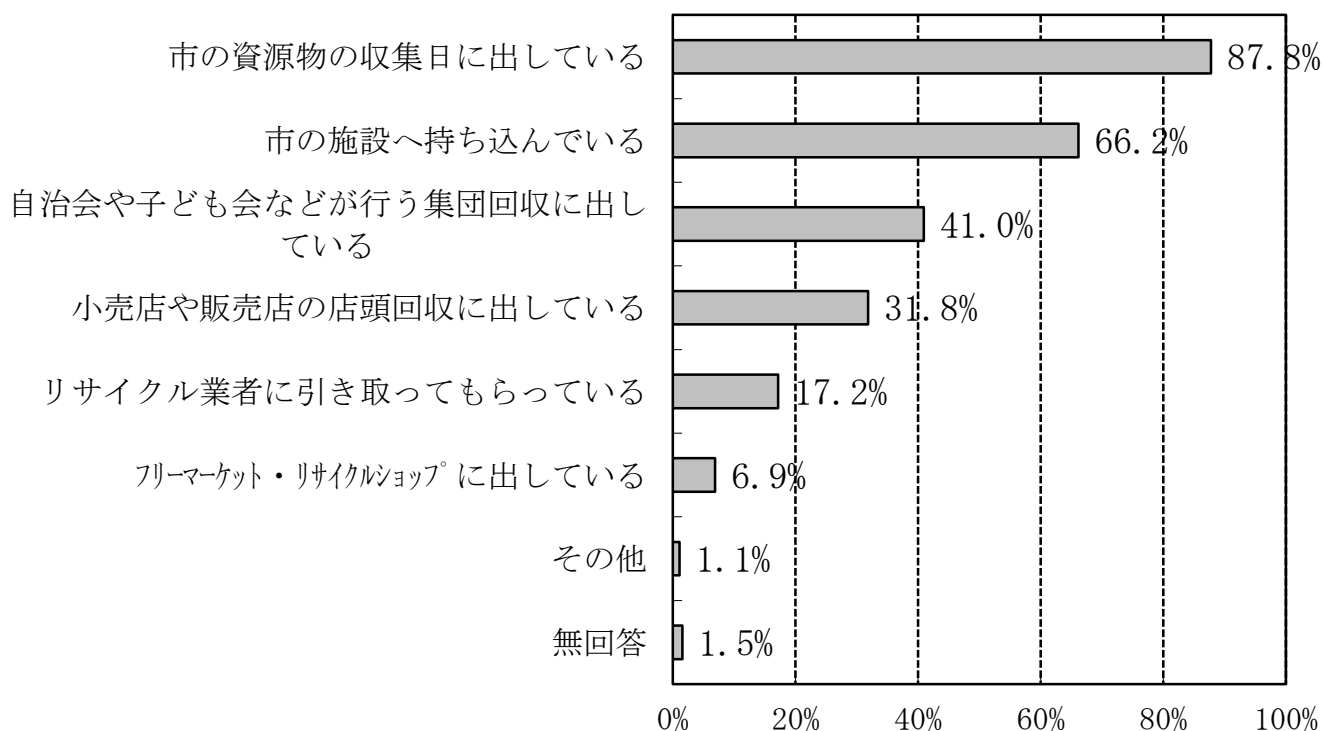
また、平成27年度から試験的回収をはじめた「古布・衣類」については41.9%、「灰」については排出者も少ないことから10.4%程度であった。

「分別・リサイクルはしていない」及び無回答については合わせて2%未満であった。



(2) 分別・リサイクルの方法について・・・問23 (該当項目すべてに回答)

各家庭がどのような方法によって分別・リサイクルに取り組んでいるのかを調査した。その結果、87.8%の家庭で市の資源収集を利用しており、市の施設への持込みも66.2%の家庭が利用されていることがわかった。また、集団回収についても、41.0%の家庭が利用していることがわかった。反面、リサイクル業者の引き取りは17.2%、フリーマーケット・リサイクルショップの利用は6.9%の利用率となっている。

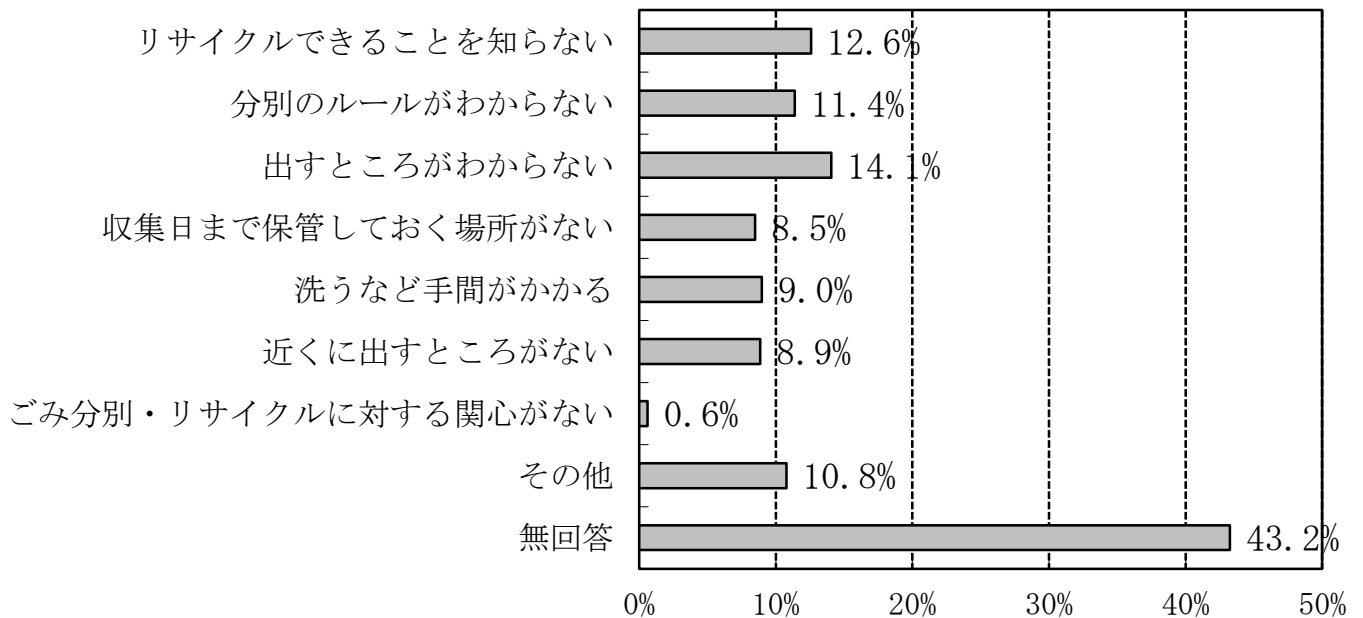


(3) 品目によって分別・リサイクルに取り組んでいない理由について

・・・問24 (該当項目2つまでに回答)

(1) でリサイクルしていない品目がある家庭について、取り組んでいない主な理由を調査した。

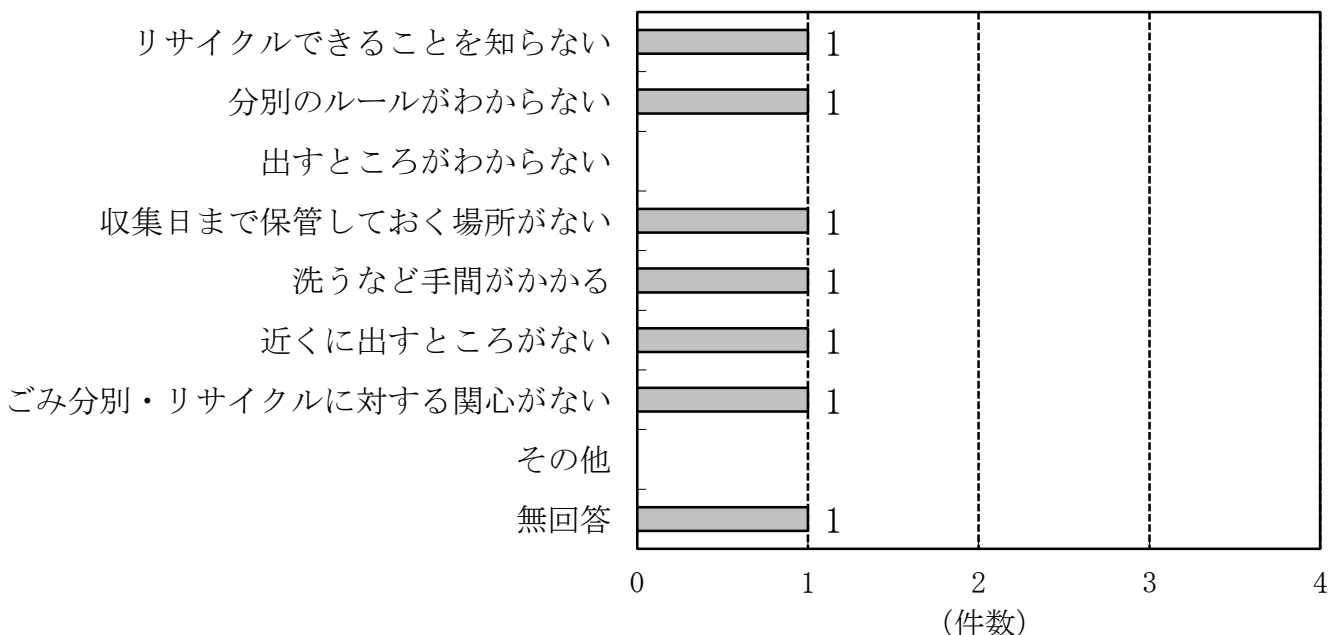
その結果、「出すところがわからない」という回答が最も多く14.1%、次いで「リサイクルできることを知らない」という回答が12.6%あった。



(4) 全く分別・リサイクルを行っていない理由について

・・・問25 (該当項目2つまでに回答)

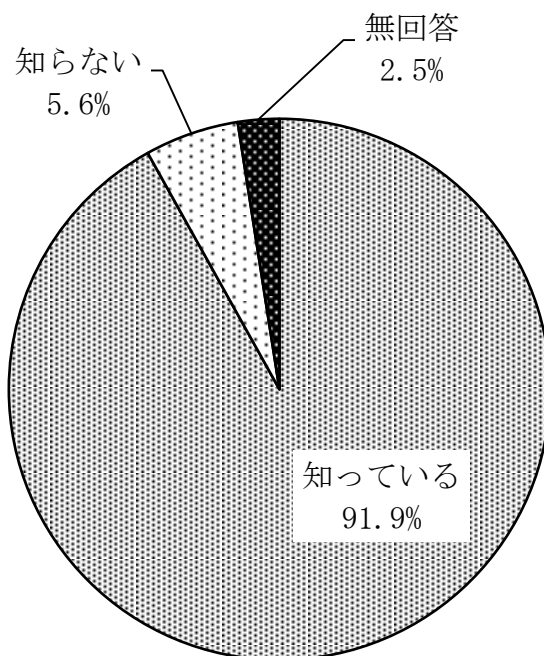
(1) で「分別・リサイクルはしていない」と回答した家庭についてその理由を調査したが、該当数が少なく次のような結果となった。



2 市の施設の利用やごみ分別・リサイクルに関する情報源について

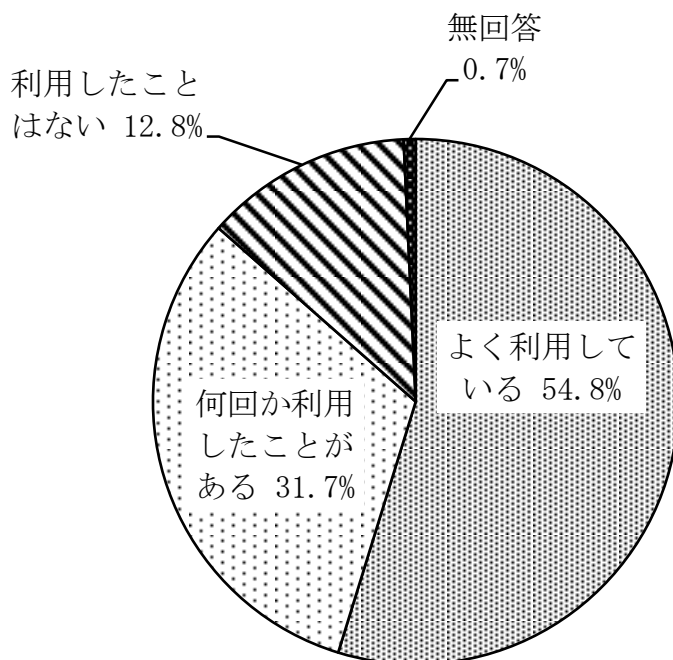
(1) 資源物を持ち込むことができる市の施設の認知度について・・・問26

資源物を持ち込むことができる市の施設があることについては、「知っている」という回答が91.9%であった。



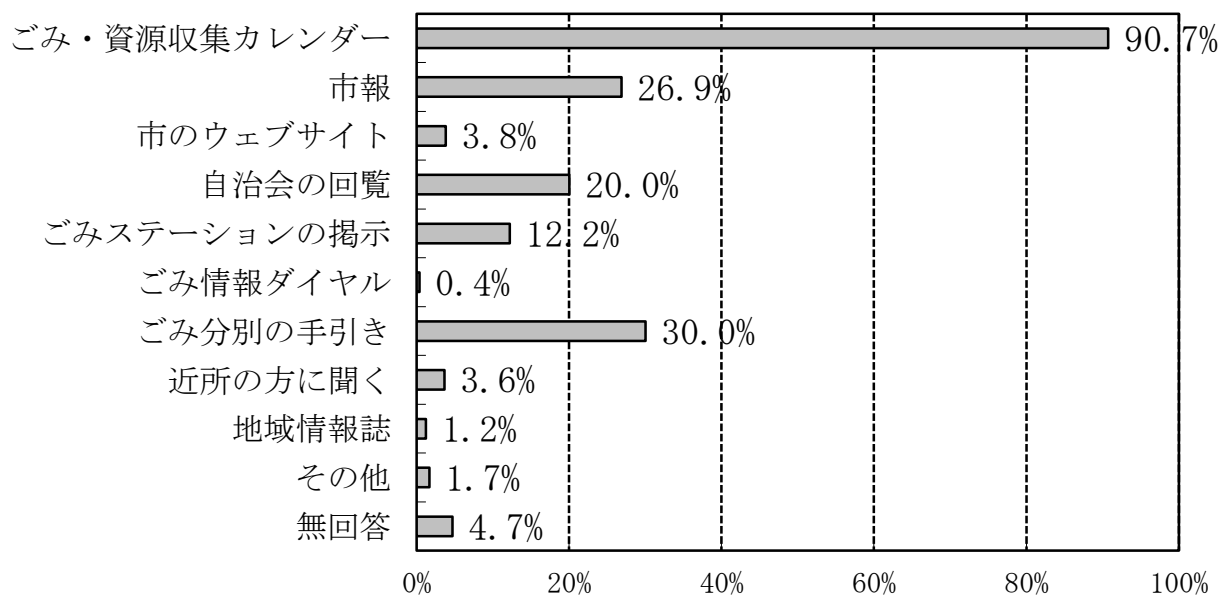
(2) 資源物を持ち込むことができる市の施設の利用度について・・・問27

(1)で資源物を持ち込むことができる市の施設を知っていると回答した家庭のうち、「よく利用している」「何回か利用したことがある」のは、合わせて86.5%であった。



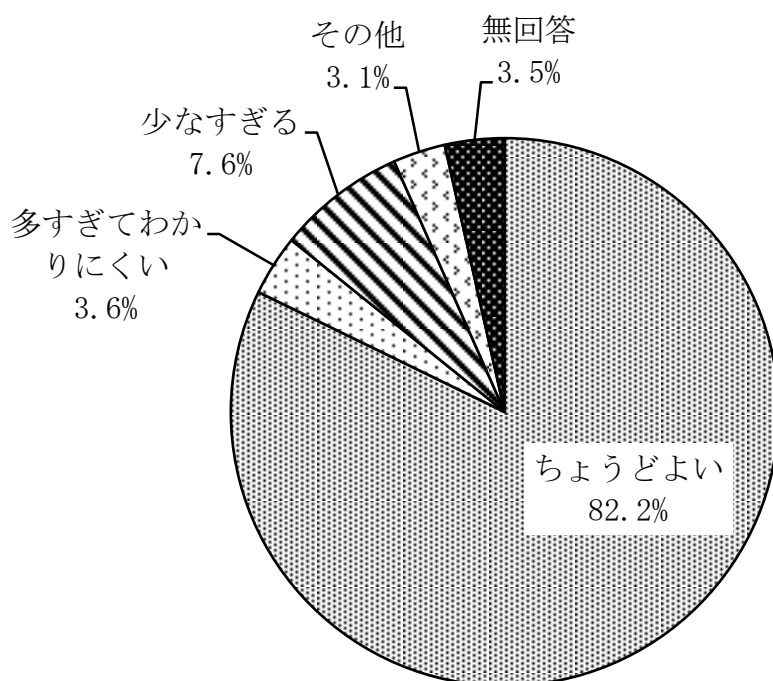
(3) ごみ分別・リサイクルに関する情報源について・・・問28 (該当項目すべてに回答)

ごみの分別やリサイクルに関する情報は、「ごみ・資源収集カレンダー」から得ているという回答が最も多く90.7%であった。次いで「ごみ分別の手引き」が30.0%、「市報」が26.9%の順となっている。



(4) 現在のごみ・資源収集カレンダーの情報量について・・・問29

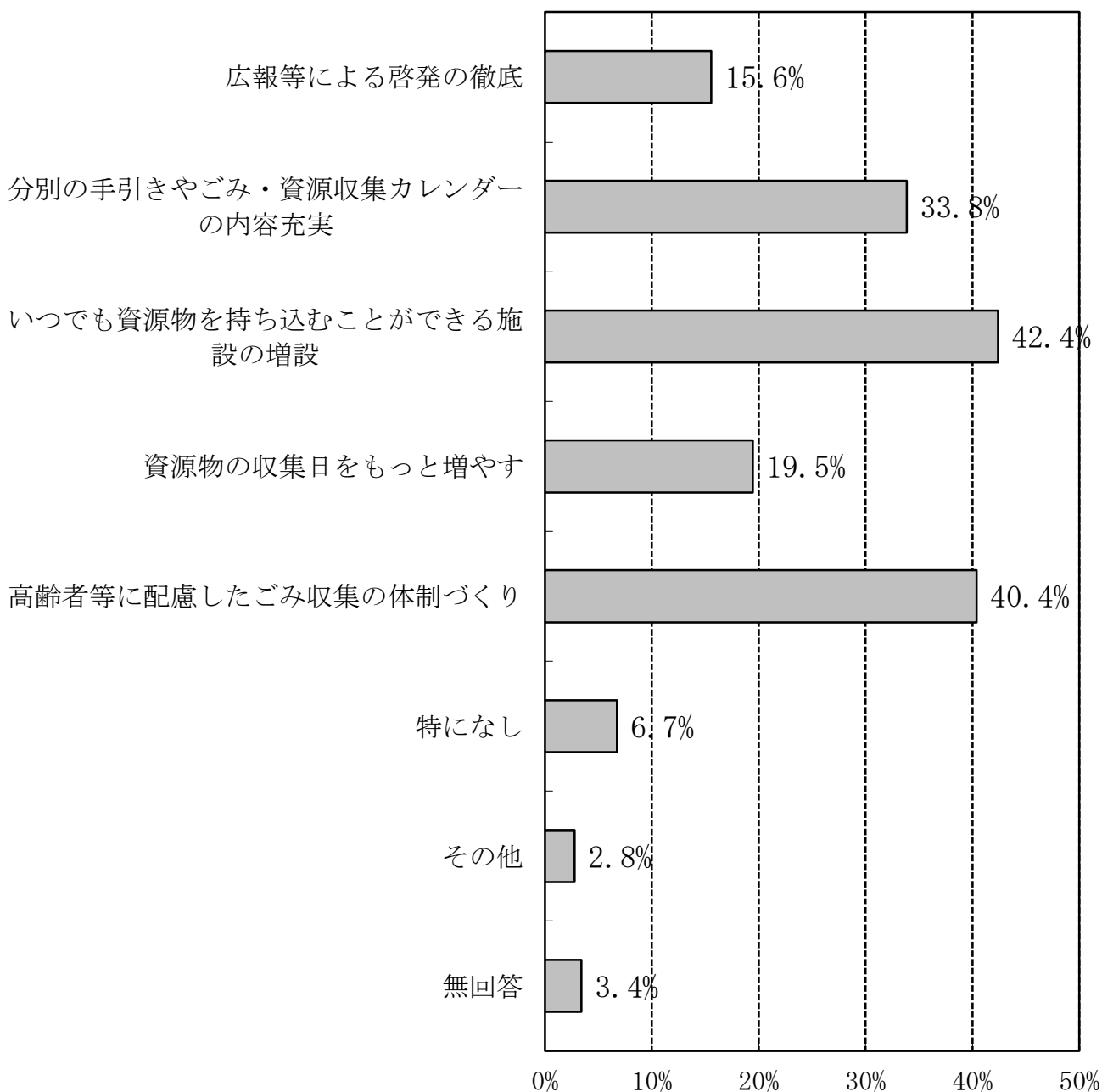
現在のごみ・資源収集カレンダーの情報量については、「ちょうどよい」という回答が82.2%であった。



3 その他、市の実施するごみ収集やリサイクルについて

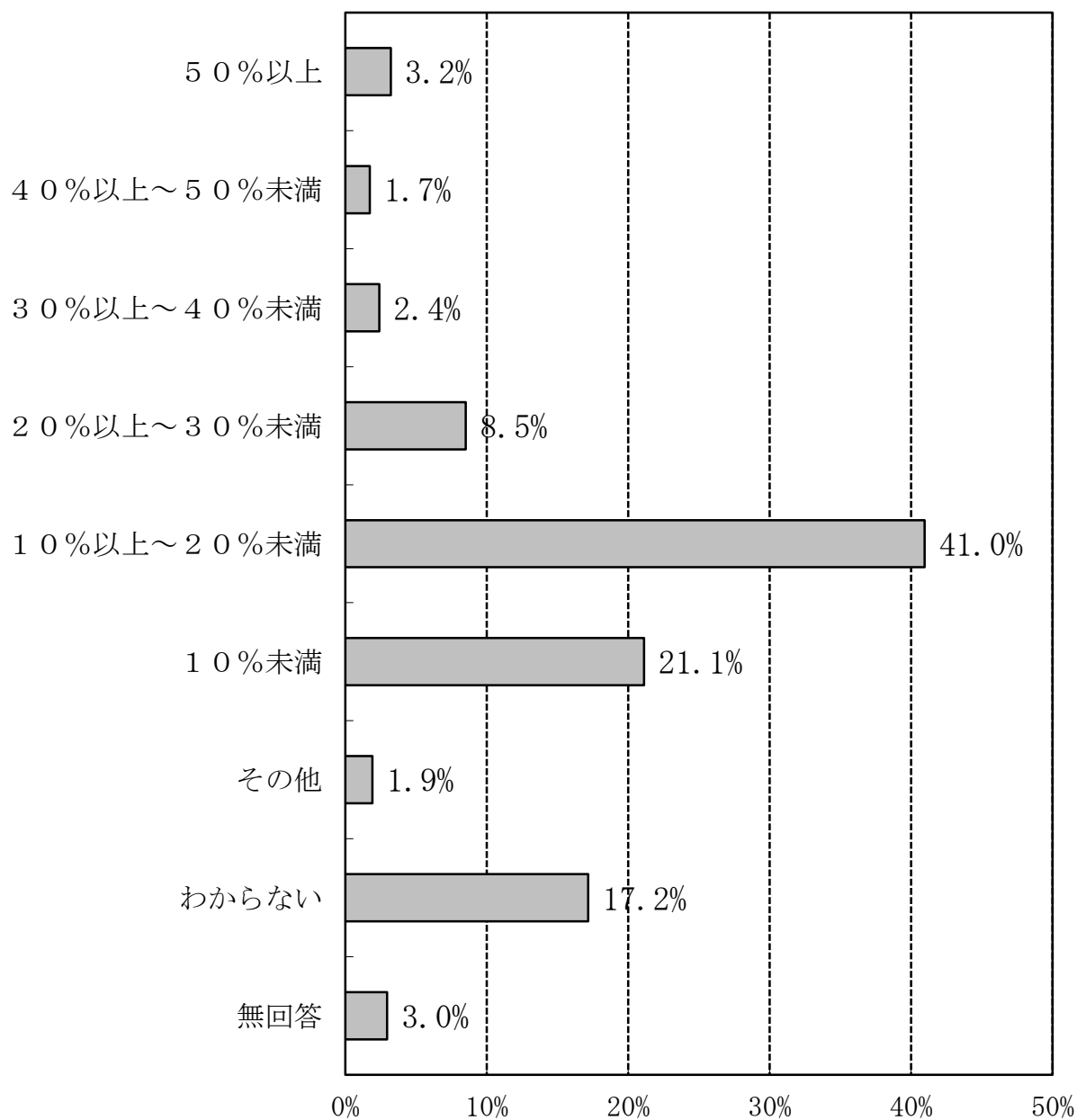
(1) ごみの分別やリサイクルを進めるため、今後、市が実施すべきと思うことについて
・・・問30（該当項目2つまでに回答）

今後、市が実施すべきと思うことについては、「いつでも資源物を持ち込むことができる施設の増設」がもっとも多く42.4%であり、次いで「高齢者等に配慮したごみ収集の体制づくり」「分別の手引きやごみ・資源収集カレンダーの内容充実」の順となっている。



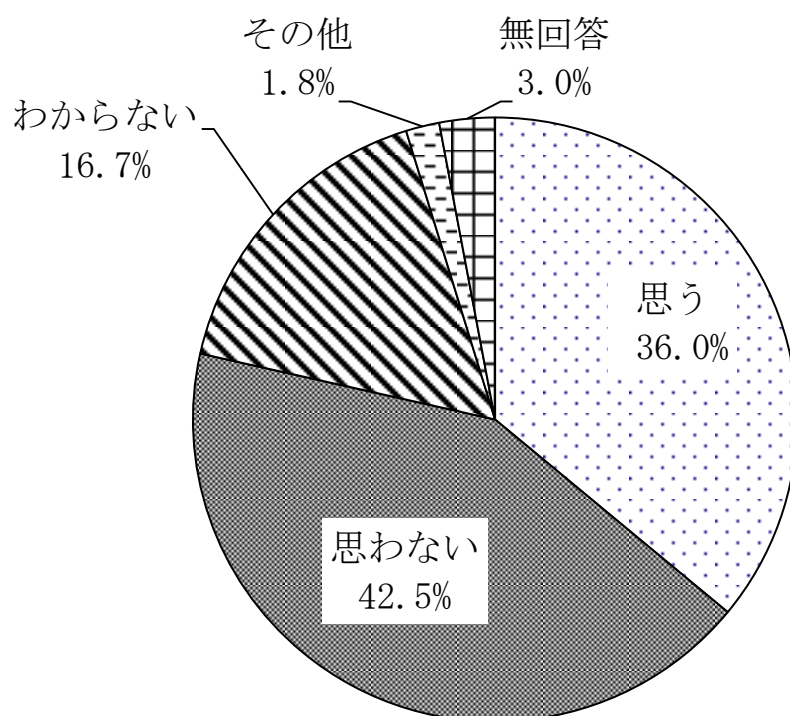
(2) ごみ処理にかかる経費の排出者負担割合について・・・問31

ごみ処理にかかる経費の排出者負担割合については、「10パーセント以上～20%未満」がもっとも多く41.0%であり、次いで「10%未満」、「わからない」の順となっている。



(3) 不燃ごみの指定収集袋について・・・問32

不燃ごみ指定収集袋について、あったら便利だと「思う」が36.0%、「思わない」が42.5%だった。



(4) 山口市の燃やせるごみの指定収集袋について・・・問33 (自由回答)

山口市の燃やせるごみの指定収集袋について自由回答による調査を行った。
 意見の分類を行った結果、「丈夫にしてほしい・破れやすい」という意見が最も多く、次いで「現状のままでよい」という意見となっている。

